

本説明書は専門知識を有する業者様向けの内容となっており、誤った方法で作業を行うと、傷・破損・ケガにつながるおそれがあります。本書を必読の上、専門知識を有する、業者様が作業を行ってください。

設置場所の注意

- 躯体（建物や塀など）に隣接する場合は、接触防止をするため躯体と300mm以上離して設置してください。
- 給排水管など、地下埋設物に影響を与えないか、地下埋設物の位置を確認してから施工してください。
- 大気中に強い酸やアルカリ成分が多く含まれる場所には、設置しないでください。製品の性能が低下する可能性があります。
- 振動、衝撃のある場所には、設置しないでください。製品の破損・倒壊につながるおそれがあります。

開梱・保管時の注意

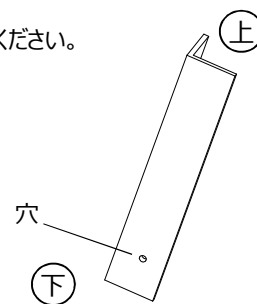
- 運搬・輸送時は、投げる・落とす・ぶつけるなど、製品に衝撃を与えないように取扱ってください。傷や破損の原因になります。
- 製品は、梱包状態でも上積みをしなください。傷や破損の原因になります。
- 開梱時に製品の破損や異常がないか確認し、傷つかないように保管してください。
- 柱は、アルミ製品となっています。異種金属と直接接触すると、腐食する可能性があります。接触する場合は、直接触れない様に養生してください。
- 製品を保管する際は、一時保管する場合でも以下の内容を守って保管ください。
 - ① 壁などに立てかけずに平置きしてください。立てかけた製品が倒れ、傷や破損、ケガのおそれがあります。
 - ② 日陰にて保管してください。直射日光にあると製品が熱くなり、火傷のおそれがあります。

施工上の注意

- 基礎は、コンクリートを用いて、栗石^{くわいし}を敷いてください。
- 基礎用のコンクリートやモルタルに、海砂を使用しないでください。腐食の原因となります。
- 凝結促進剤・減水促進剤・凍結防止剤などを使用しないでください。腐食の原因となります。
- コンクリートの養生期間は十分にとり、養生期間中は重い物を置いたり、振動などを与えないように、注意してください。
- 柱の表面に付着したコンクリートやモルタルなどの汚れは、速やかに取り除いてください。
- 埋め込む際は、柱の上下方向を必ず確認してから行ってください。**(穴がある方が下方向です)**
- 柱は、抜け止め棒をさした状態で埋め込み、深さを十分確保して埋め込んでください。
- 柱を切断しての寸法の変更や、その他加工を安易にしないでください。

(切断する場合は、柱の下方向から必ず切断してください)

※施工完了後、今後の施設安全維持のため「L.free取扱説明書」を施工記録表に記載の上、施主様にお渡し下さい。



取扱上の注意

- 柱の設置後、無理な衝撃や長期的な荷重は、与えないでください。破損や変形などの原因となります。
- 汚れを落とす場合は、柔らかい布やスポンジで水洗いか、頑固な汚れは中性洗剤を利用して水で十分、洗い流してください。

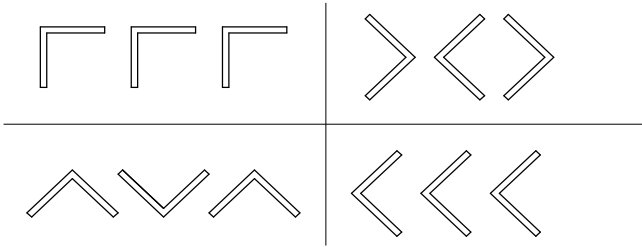
同梱部品一覧

形状				
名称	※ 柱	抜け止め棒	L.free 施工説明書	L.free 取扱説明書
入数	1本	1本	1部	1部

※柱の下端部から40mm程は、塗装が施されていませんが、性能上は問題なく、使用できます。

本製品はL型の柱になっており並べ方で、様々なレイアウトを表現できます。

参考レイアウトパターン

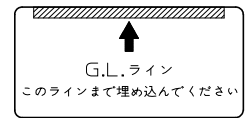


● 柱の設置間隔や位置を調整し、「G.L.ラインラベル」に記載されている、[G.L.ライン]まで埋め込んでください。

(柱は、支え棒や添え木などで固定してください)

なお、柱の設置間隔を狭めすぎると、並べ方によっては、柱の間に左官用のコテなどの工具が入らない可能性があります。適切な間隔と工具をお使い下さい。

※ 柱の間隔は、安全上問題のない(子供の頭や手が挟まらないなど)間隔で設置してください。



G.L.ラインラベル

● 柱の高さは、G.L.ラインから1400mmの高さを推奨しています。(柱全長 L = 1750mm)

高さを調整する場合でも、必ず300mm以上は地中に埋め込んでください。

- ① 埋込穴は、
一辺400mm以上
深さ300mm以上
(推奨埋込寸法350mm)
確保してください。

- ② 柱は、埋込穴の
端から150mm以上
間隔をあけてください。

- ③ 柱の間隔は30mm以上
確保してください。

